



発行所

公益社団法人 全国珠算教育連盟

青森県支部

所在地 三沢市中央町4丁目4-6

☎ 0176 (51) 5018

支部長 斎藤 隆

責任者 福士隆行

令和4年度珠算指導者講習会 ～指導に困ったときのQ&A PART4～ 八戸地区 佐藤淳子

令和5年4月16日(日)指導者講習会が開催され、パネラーを務めさせて頂きました。

平成30年度にPART2の講習会で9級から7級迄の指導法の際にパネラーを務めさせて頂いて以来で実に5年振りの事でした。当教室では、保護者の間に『3級合格したら算盤教室を辞めてもよい』という謎の認識が定着しており、今回のテーマの珠算2級、1級まで進む生徒が大変少ないのが現状です。そのような環境の中で数少ない引き出しを開けて指導法を皆様にご披露するのは気が引けましたが、『頼まれたら断れない』損な性格上、引き受けてしまいました。



次に講習会の主な内容について述べさせて頂きます。座長は競技部長の斎藤拓哉先生、パネラーは三上多恵子先生(西北五地区)小川原光治先生(三沢地区)と私の3人で勤めさせて頂きました。珠算では①掛け算8桁、9桁の片落としでの指置きの有無②両落としの場合のスタート位置③実法の桁数による算法の変更④0.00を含む乗除算の指導⑤見取り算分割の有無⑥補数の読み方、計算の方法(1級2級それぞれのケースについて)暗算では実・法合わせて5桁になる計算の指導についてでした。いずれも普段何気なく指導していることばかりですが、珠算指導のプロの皆様にご納得いただけるように説明するとなると中々難しく感じました。

当教室では、乗算については9級から両落としで指導し、小数が入っても同一の指導をしています。他のパネラーの先生は片落としも併せての指導を取り入れていて、実の先払い・後払い等の様々な方法について説明がなされました。

補数計算指導では、補数の意味の指導、複数回引けなくなる場合の指導法について他の先生の工夫がなされた指導法を学ぶことができ、私自身にとっても大変勉強になりました。

ひとつの計算について最終的に同じ答えが出ますが、そのプロセスは様々あり、生徒の理解力に合わせた言葉の使い方や計算法を組み合わせて指導することが大切だと感じました。また、パネラーを引き受けることで自身の指導について振り返る大変貴重な機会になりました。ありがとうございました。

ひとつの計算について最終的に同じ答えが出ますが、そのプロセスは様々あり、生徒の理解力に合わせた言葉の使い方や計算法を組み合わせて指導することが大切だと感じました。また、パネラーを引き受けることで自身の指導について振り返る大変貴重な機会になりました。ありがとうございました。

検定試験+段合格者

第413回検定試験 令和5年1月29日 施行

珠算 加藤 雄大 (三沢地区)

珠算 沼山 大斗 (三沢地区)

暗算 熊野 暁文 (三沢地区)

第414回検定試験 令和5年3月19日 施行

珠算 下田 結月 (三沢地区)

暗算 出川 桜 (三沢地区)

暗算 藤尾 未来 (三沢地区)



令和5年6月～10月の行事予定表

6/11 (日) 青森県大会 兼 東北七県予選
…リンクステーションホール青森 (青森市)

6/18 (日) 下級検定

7/23 (日) 第416回検定

7/30 (日) 東北七県大会

…宮城県(仙台市)

8/8 (火) 全日本選手権



8/11 (金・祝) ～16 (水)

支部事務局休み

8/27 (日) 常任委員会・定時総会・講習会

…リンクステーションホール青森 (青森市)

8/27 (日) 下級検定

9/24 (日) 第417回検定

10/9 (月・祝) 全日本通信大会

…リンクステーションホール青森 (青森市)

10/22 (日) **珠算指導者講習会※**

10/29 (日) 下級検定

※事業計画には載っていませんが、10/22(日)に珠算指導者講習会を開催します。講師は、道央支部の若松尚弘先生。会場は、青森市『アスパム』を予定しておりますので、ぜひご参加下さい。詳細は後日お知らせいたします。

令和 5 年度 支部長退任挨拶

新緑の候 会員の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

私は平成 10 年 7 月に支部長に就任し、以来 25 年間に渡り会員の皆様に支えられ職務を全うすることができ、心根より感謝申し上げます。

支部長となり半年後の 12 月前支部長の斎藤彰先生が逝去された。青森県支部は昭和 33 年 9 月仮支部として発足し、翌年 6 月に設立総会を開催しているが、以後 11 年間は支部としての活動は殆どなく、昭和 45 年に支部改革の機運が高まり再出発となった。前支部長は翌年 8 月に支部運営を委ねられ、当時会員・受験者数が全国最下位だった支部をトップレベルにしたことが最大の功績であった。

再出発の役員として活躍された先生方を思い浮かべると、根岸喜一先生・斎藤彰先生・楠美清弘先生・和田陽太郎先生・千葉貞規先生が逝去されている。…合掌…残っているのは、横沢清美先生・及川義明先生と私の 3 名だけとなった。

以後、私が在職中に手掛けた大きな行事は、全日本珠算選手権・支部創立 50 周年記念式典・全国珠算研究集会となるが、全日本と支部創立 50 周年については全珠連『創立六十周年記念誌』に、また研究集会については来年発行される『創立七十周年記念誌』の支部のあゆみに、当日の様子が詳細に記載されているのでご一読願いたい。

平成 17 年 8 月全日本珠算選手権大会が十和田市で開催された。担当支部として事前の準備を進めたが、手掛けた事の殆どが 1 度ではうまくいかずに、2 度・3 度と手間をかけた記憶がある。慣れない全国規模の行事をやることは並大抵のことではできないことを痛感した。また奨励賞状と副賞の下付をお願いすることから、県庁を初め教育委員会・テレビ局・新聞社等十か所以上を副支部長の富士隆行先生と一緒に回ったことや、八戸のコンベンションに補助金の申請をするために何度か足を運んだことが思い出される。支部で作成した全日本に関する文章書類は 55 種がパソコンに保存されており、本部・支部にとって大変な事業であったことを知ることができる。この経験は 14 年後の全国珠算研究集会を担当したときに存分に生かすことが出来た。

支部・地区の業務の大半は検定試験の事務処理であるが、私は平成 15 年に検定事務のパソコン化を提案した。パソコン導入の経過をたどると、昭和 57 年に導入された『段位特認制度』の今回・前回・前々回による合否判定のため、作業が煩雑で事務量も多く毎年のように判定ミスが続いていた。平成に入りそれらを解消するため段位検定処理のパソコン化を高校教諭の林正彦先生に依頼したことが始まりであった。支部長になった翌年から、競技大会の処理ソフト(得点集計・順位決定・賞状作成…等)を導入し時間短縮を実現している。難関の検定事務では、パソコンの機能を最大限に活かすためには処理ソフトを開発し、システム化する必要があると考え、各地区の協力を得るため、パソコン・プリンターを配布し講習を数回行い支部・地区の検定事務処理を一体化することに成功した。

支部長として在職した間にやり遂げたことは、前記した本部行事を大過なく終えたこと、支部検定事務処理をシステム化したことである。

最後の 3 年間は新型コロナ感染対策に追われる毎日であったが、支部行事が次々と中止になる中、いち早くオンライン会議の導入・オンライン講習会や競技会の開催など支部運営に支障がないよう対応することが出来た。

来年担当となる第 51 回東北七県珠算競技大会は大きな行事ではあるが、現在の支部会員であれば見事な運営をするものと確信しており楽しみにしている。

今後は新型コロナが終息しても、支部運営は厳しい状況がつづくことと思うが、厳しい状況は他の業界団体も同様で珠算の団体に限ったことではありません。会員の皆様におかれましては、私が職を辞した後も新支部長を先頭に、将来を担う子供達のため珠算教育に共に邁進されますようご協力をお願い申し上げます。

敬具

令和 5 年 5 月 1 日 支部長 斎藤 隆



【思い出の一枚】 前日、看板に間違いを発見！
このはしご(推定 10m)を上ったのは大久保芳明先生。